

いま、なぜ、ナチスを問うのか



人文研共同研究班「空間の再審」特別シンポジウム

## 帝国日本を生きたナチズム

～衝撃と反発の双面性～

聴講無料・来聴歓迎



## ファシズムと対峙するための知を求めて

〈司会進行〉

坂本優一郎

藤原辰史

「血と土」の受容と変容  
—日本農業のナチス経験

片山杜秀

ナチスから炙り出される  
日本右翼思想

山室信一

空間をめぐる学知の連鎖  
—ナチス、日本そしてアジア

【日時】 2006年7月10日(月) 13:30～18:00  
【場所】 京大大学人文科学研究所本館・大会議室  
「東山第一号」交差点西北角(市バス「京大正門前」)  
【主催】 京大大学人文科学研究所  
【問合せ】 京大大学人文科学研究所総務掛 075-753-6902  
〒606-8501 京都市左京区吉田牛ノ宮町

「帝国日本を生きたナチズム～衝撃と反発の双面性～」

1930年代後半から40年代前半にかけて、帝国日本はナチス・ドイツの試みを学び、さまざまな領域で応用した。それは、宣伝技術、統制経済、労働動員、農地政策、統治技法など多岐にわたる。日本におけるナチズムの衝撃と反発はどのようなものであったか。特に思想と学知の領域に焦点を当て、あの時代に日独が共有した言説空間に迫る。なお、このシンポジウムは、2004年度から継続中の京大人文研共同研究班「空間の再審」（班長：山室信一）の成果の一部である。



藤原辰史（ふじはら たつし） 人文研助手

専門：ドイツ農業史、農業思想史

著書：『ナチス・ドイツの有機農業—「自然との共生」が生んだ「民族の絶滅」』、『耕す体のリズムとノイズ—労働と身体』（『身体論のすすめ』）など



片山杜秀（かたやま もりひで） 評論家

専門：音楽全般、近代思想史

著書：『写生・随筆・評議—三井甲之の思想圏』（『日本主義的教養の時代』）他、コラムやCDの解説など



山室信一（やまむろ しんいち） 人文研教授

専門：法政思想運動史

著書：『日露戦争の世紀—連続視点から見る日本と世界』、『思想課題としてのアジア—基軸・連続・投金』（増補版 キメラ—萬州国の肖像）など

〈司会〉



坂本優一郎（さかもと ゆういちろう） 人文研助手

専門：イギリス近代史

著書：『18世紀のロンドン・シティとイギリス政府公債』（『西洋史学』200）、「空間としての投資社会」（『空間のイギリス史』）など

〈人文研アカデミー 今後の予定〉

人文研本館大会議室・申込不要・無料

●「東アジアにおける健康思想の系譜」（共同研究セミナー）

9月28日、10月5・12・19・26日（各木曜） 17:30～19:00

武田時昌・森村謙一・大平桂一・長野仁・寄金文嗣

●「開所記念講演会」

11月2日（木曜） 13:00～17:00

田中淡・加藤和人・坂本優一郎